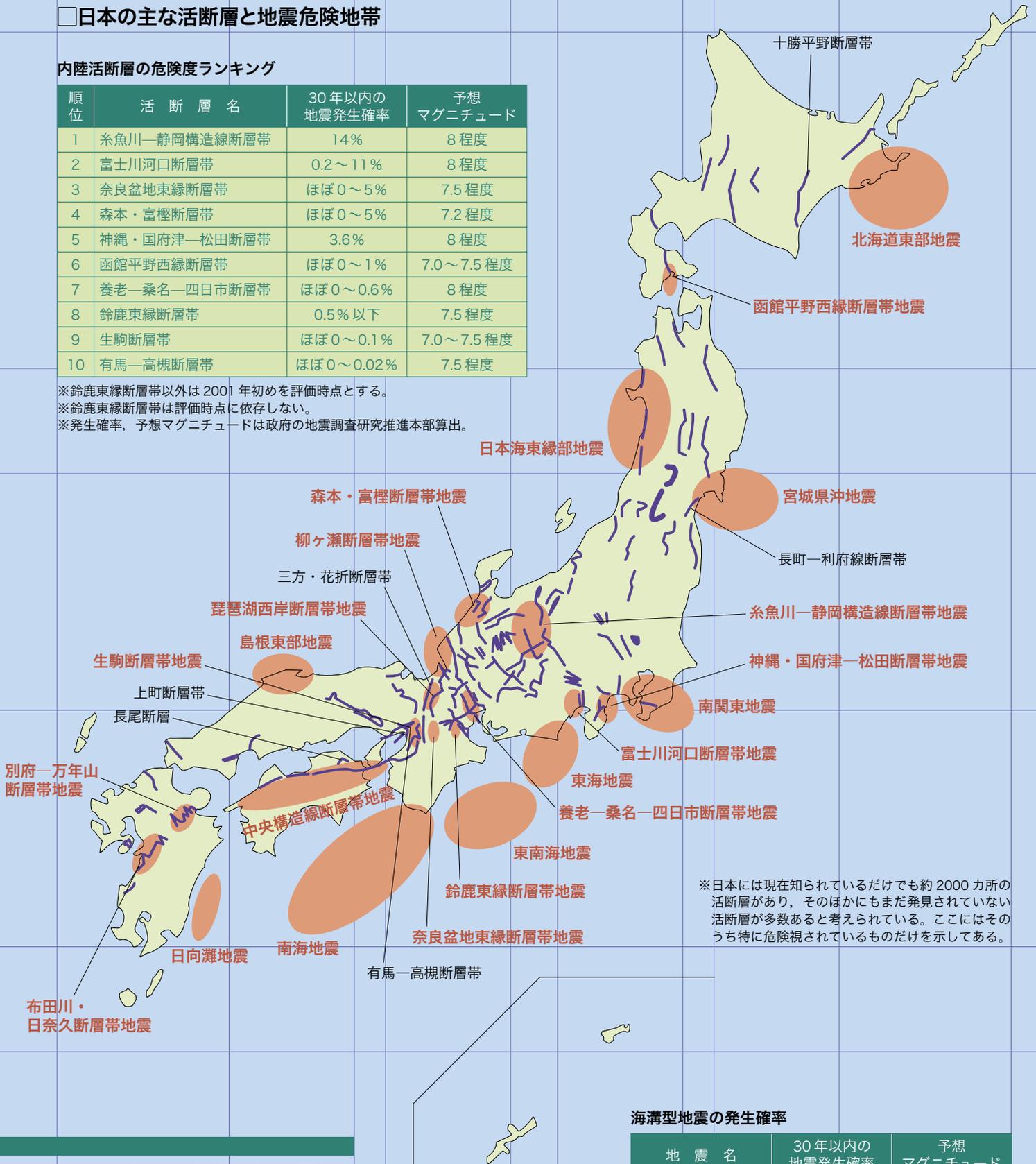


日本の主な活断層と地震危険地帯

内陸活断層の危険度ランキング

順位	活断層名	30年以内の地震発生確率	予想マグニチュード
1	糸魚川—静岡構造線断層帯	14%	8程度
2	富士川河口断層帯	0.2～11%	8程度
3	奈良盆地東縁断層帯	ほぼ0～5%	7.5程度
4	森本・富樫断層帯	ほぼ0～5%	7.2程度
5	神縄・国府津—松田断層帯	3.6%	8程度
6	函館平野西縁断層帯	ほぼ0～1%	7.0～7.5程度
7	養老—桑名—四日市断層帯	ほぼ0～0.6%	8程度
8	鈴鹿東縁断層帯	0.5%以下	7.5程度
9	生駒断層帯	ほぼ0～0.1%	7.0～7.5程度
10	有馬—高槻断層帯	ほぼ0～0.02%	7.5程度

※鈴鹿東縁断層帯以外は2001年初めを評価時点とする。
 ※鈴鹿東縁断層帯は評価時点に依存しない。
 ※発生確率、予想マグニチュードは政府の地震調査研究推進本部算出。



※日本には現在知られているだけでも約2000カ所の活断層があり、そのほかにもまだ発見されていない活断層が多数あると考えられている。ここにはそのうち特に危険視されているものだけを示してある。

モデルに当てはめて試算したもの。平成15(2003)年3月現在、33の活断層で調査が終わった。

◎また最近では、「確率だけでは分かりにくい」という声に応えて、「地震発生の可能性が高い」(3%以上)、「やや高い」(0.1～3%未満)、「低い」(0.1%未満)の3段階にランク分けし、発表している。

海溝型地震の発生確率

地震名	30年以内の地震発生確率	予想マグニチュード
東海地震	—	8程度
東南海地震	50%程度	8.1前後
南海地震	40%程度	8.4前後
宮城県沖地震	98%	7.5前後

※東海地震以外の発生確率、予想マグニチュードは政府の地震調査研究推進本部算出。
 ※東海地震の発生確率は算出されていないが、切迫性は最も高いと言われている。
 ※宮城県沖地震の発生確率は2020年までに発生する確率。